

資料

第6回生活環境整備分科会資料

2006年3月22日

議事次第

■ 分科会は合計2時間で行います

次第	時間	内容
1 開会	5分	①挨拶 ②出欠確認(出欠表の記入) ③前回の検討内容(議事録・整理表)の確認
2 検討の進め方	10分	①検討の進め方に関する説明 ②本日の目標確認
3 話し合い	90分	
4 とりまとめ	10分	
5 閉会	5分	①次回の内容 ②次回の日程 ③意見・質問 ④最終総括(会長)

本日の分科会の目的と成果物

■ 重点課題を確認

前回、重点課題の抽出が済んでおり、まずは内容の確認を行います。

■ 重点課題を絞り込んでみます

4つのカテゴリーごとに重点課題を3～5つ程度に絞り込みます。

■ 分野横断的課題について検討します

抽出された課題のうち、分野横断的に取り組むべき課題がある場合は、どのように取り組んでいくか（分科会間の連携方法や役割分担等）を全体会で協議します。そのための題材を検討します。

重点課題を表記する際は、

- 何故当該課題が重点課題であるのかについて背景を記述する
- 実際に何が問題なのかが分かるように“具体的に”記述する

SWOT分析結果

強み

- ①首都圏からのアクセスが良い
 - ◆工場誘致
 - ◆他県からの定住が多い
 - ◆文化交流
- ②緑と水の自然に恵まれ風水害が少ない
- ③大谷地区の景観と大谷石による建造物を保有
- ④周辺部に豊かな住環境を得やすい
- ⑤自動車道路の整備が進んでいる
 - ◆内・外環状線

弱み(問題)

- ①公共交通の整備・ネットワークが悪い
- ②景観・文化意識が低い
- ③まちづくり統括的に支援、補助、制限推進する機関がない
- ④市街地の公共スペース・住環境の魅力がない
- ⑤産業廃棄物量が減らない

SWOT分析結果

機会

循環型社会への移行

- ◇細分化されたゴミの処理の実態が求められる
- ◇資源リサイクルのため、分別が更に細分化される
- ◇公道等へのポイ捨てへの罰則が強化される
- ◇水の豊かさを大切に
- ◇高齢者も容易に理解できる分別細分化の手法が求められる
- ◇外国人労働者などへの資源リサイクルの教育説明が必要となる
- ◇分別が進むと現在のゴミステーションの形態が変わる
- ◇環境エネルギー
- ◇省エネ実現への国際的要求
- 分別が進むと無主物から有主物へ変わって行く
- ◇分別が進むとゴミ収集車は週7日稼働へと変わる
- ◇自治会内でのゴミ環境は美化へ転換する

行政役割の変化

- ◇広域行政の実現(道州制の導入)
- ◇小さな政府、地方行政開花のチャンス
- ◇地方都市間の連携強化
- ◇教育投資の増大

高齢者の貢献

- ◇団塊世代高能力者の時間的余裕
- ◇清原や芳賀の企業に勤める人の大量退職
- ◇元気な高齢者の社会参加余裕
- ◇無職の人が増加
- ◇高齢化により時間あまり世代が増え、文化・環境への関心が高まる

景観意識の高まり

- ◇地域性が見直しが高まり、市の独自性が問われる
- ◇本県の文化遺産に誇りをもつ
- ◇城址公園ができる(景観シンボル)

中心街への回帰

- ◇集中型都市の必要性
- ◇ミニ開発の限界
- ◇都市観光客の増加

生活意義の変化

- ◇大量消費のおわり
- ◇「満足」するジャンルが変わる
- ◇県民意識改革
- ◇個人教育
- ◇自然を重視する社会への回帰
- ◇ゆっくり生活への回帰(省資源、省エネ)
- ◇県民性を知るマナー、態度
- ◇使い回し方の質
- ◇生産されたものが再利用されるようになってきている
- ◇利便性需要→文化需要へ(より日常的な)
- ◇地産地消、Slow Lifeと地域への関心が高まっている
- ◇趣味の質
- ◇生活の質

他

- ◇外国人労働者の増加(低コスト)
- ◇道路インフラは良くなってきた
- ◇地価基準の崩壊
- ◇よその街のよいところを学ぶ

脅威

循環型社会への阻害

- ◇ゴミの最終処分場はいっぱいになる?
- ◇廃棄物課金
- ◇産廃処分場の枯渇

宮らしさの衰退

- ◇宇都宮のことを知らない宮っ子二世の増加
- ◇文化遺産への無関心
- ◇中心市街地に残された大谷石建造物の老朽化
- ◇景気の高まりと共に、歴史的景観が無くなって行く(蔵等の小規模な物)

ストックの増大

- ◇静かな住環境
- ◇空家、空き店舗の増加、廃墟化
- ◇中心市街地に増える駐車場、未利用地
- ◇建物老朽化
- ◇市中心部のスラム化
- ◇北関東道開通により、郊外型ショッピングセンターに益々依存する
- ◇中心市街地に急増するマンション
- ◇高齢化により車への依存度が低くなる
⇒中心部へ
- ◇郊外大型店の撤退
- ◇事業所や店舗の郊外転出

社会不安の増大

- ◇子どもの登下校時の安全確保
- ◇地域のコミュニティはこのままだと崩壊
- ◇規範意識の低下(ルールを守らない)
- ◇外国人労働者の増加(異文化のブツカリ)
- ◇若い人の社会参加意識の低下
- ◇社会階層化が進む(できる者とできない者)
- ◇ポイ捨てが後をたたない
- ◇労働人口の減少
- ◇元気な高齢者の社会参加圧力
- ◇高齢者医療費の増大

公共施設の維持不安

- ◇税收減により都市施設整備が遅くなる
- ◇税收の減少、緊縮税制
- ◇市財政の赤字化
- ◇道路景観の整備
- ◇インフラ老朽化

他

- ◇金のない無職の人が増加
- ◇交通弱者の孤立

強み×機会

強み: 首都圏アクセスがよい

- 街を楽しむ人の訪れの期待(景観意識)
- 大谷石を生かしたオンリーワンの都市観光で東京人をひきつける(景観意識)
- 東京から企業誘致ITビルディング(中心街回帰)
- 駅前利便顔づくり(中心街回帰)
- 首都圏からアクセスが早くなり新しいニュースが身近にとどく対応が早くなる(生活意識の変化)
- 首都圏勤務者の週末ハウスをつくる(生活意識の変化)
- 自然の豊かさと都市の便利さをあわせもつスローライフスタイルのアピール(生活意識の変化)

強み: 大谷地区・大谷石というユニークな資産

- ・緑豊かな郊外に環境共生型住宅を増やす(空家の再利用) (循環型社会)
- 自然を生かした教育へ (行政役割変化)
- 風水害対策費等の軽減 (高齢者の貢献)
- 自然に恵まれた高齢者のゆとりある日常 (高齢者の貢献)
- 恵まれた環境を後世に伝える調和のとれた町並みになる (景観意識)

強み: 大谷地区・大谷石というユニークな資産

- 大宅石をキーワードにした都市間連携活 (行政役割変化)
- 住み続ける地域へのこだわり (景観意識)(生活意識の変化)
- 大谷地区を石と歴史の文化財学ぶ多くの人によく知ってもらう (景観意識)
- 個性ある街の実現 (中心街回帰)
- 大谷在住の意固地、勝手さが変化する (中心街回帰)
- 地域への帰属意識の高まり (生活意識の変化)

強み: 自動車道路の整備が良好

- 上下水道、道路と緑を守り高齢化、少子化、住環境がよくなる (循環型社会)
- 環境共生型の住宅 (循環型社会)
- 首都圏のビバリーヒルズをつくる

<自動車道路>

- 広い道路を作るとき電線・ガス・水道を同時にする 経費の節約になる

<全体>

- 環状線沿いはファッション性の高い看板を集め、特色ある車窓景観を作り出す(景観意識)
- 歩いて暮らせる中心街と郊外部を機能的な公共交通網でネットワーク (中心街回帰)

弱み×脅威

弱み: 公共交通ネットワークが弱い

- バス停・電停に大谷石をあしらう (宮らしさ)
- 既存インフラと駅と狭範囲のアピール (ストック増大)
- 要所にある空き店舗などを更地化しパーク&ライド (ストック増大)
- バス停・電停の前の空きストックをカフェに (ストック増大)
- 渋滞する道路の整備をし歩道、自転車の整える中心部のスリム化、弱者が孤立する(ストック増大)

弱み: 景観意識が低い

- 自然の豊かさと歴史・文化を多くの人に知らせ、街の誇りになるような必要性を高める(宮らしさ)
- ストック=悪い、というイメージの払拭 (ストック増大)
- スラム化→リフォームによる住宅開発 (ストック増大)
- 公園、街、川、新幹線の下がいつも汚いから早く徹底させる (社会不安)
- 市の誇りをアピールする (社会不安)

弱み: まちづくり統括機関がない

- 街づくりの市民憲法をつくる(宮らしさ)
- 地価基準、発掘&実例(ストック増大)
- 市民のボランティア活性化(公共施設維持不安)

弱み: 市街地の公共スペース、魅力的な住環境が少ない

- まちの中に二荒山神社や城址公園がのぞめる公園をつくる(宮らしさ)
- 家賃補助等の枠拡大 (ストック増大)
- 市街地の空ビルを民間開放する。
- 機関が弱体であると計画の推進が遅れ市民の協調性が薄れる(公共施設維持不安)
- 出張客などが多い建物のロビーにジャズを聴きながらカクテルが飲めるコーナー (公共施設維持不安)
- 街中の公共施設に生活必需品があるお店、集える場所 (公共施設維持不安)

弱み: 廃棄物量が減らない

- 廃棄物減量化のキャンペーン実施、罰則の強化、若い人の関心が低い (循環社会への阻害)
- 大型商業施設の空き店舗(放置)を防ぐためデポジット制導入 (循環社会への阻害)
- 社会不安増大、ボイ捨てがさらに増えると思えば条例が増す (社会不安)
- 処分場の枯渇→大谷への再投入が始まる (社会不安)

<自動車道路>

- 広い道路を作るとき電線・ガス・水道を同時にする 経費の節約になる

強み×脅威

強み:首都圏アクセスがよい
◦ 東京の影響を受けすぎない。宇都宮らしさを確立し、安易に「東京化」されないようにする(宮らしさの衰退)

強み:自然が豊富で風水害少ない(ストック増大)

強み:大谷地区・大谷石というユニークな資産
◦大谷石の廃材を積極的にリサイクル利用し、循環型社会を目指していく意識を高める(産業廃棄物の捨て場になっていたという負の遺産としてのシンボルを「循環型社会」のシンボルとしてプラス活用していく) (循環型社会)
◦宇都宮らしさを演出するシンボリックな素材として活用する(宮らしさの衰退)
◦市街地に残されている蔵など、大谷石の建造物を地域を代表する良好なストックとして生かしていく(ストック増大)
◦社会不安-すさんだ社会や、自分の住んでいる地域に関心がもてない人々へ、宇都宮のアイデンティティの意識付けの材料として活用する(社会不安)

強み:周辺部の良好な住環境
◦今後空家などが増加すると考えられる郊外の良好な住宅ストックをいかしていく。簡単に壊さない(ストック増大)
◦郊外に広がる豊かな自然環境とゆとりある住宅ストックを魅力的な住環境として再構築し、それを宇都宮ならではのアピールポイントとする (宮らしさの衰退)
◦高齢世帯、単身世帯が増大する地域における不安を緩和するため、地域のコミュニティ力をつけ、物理的な環境だけでない真に暮らしやすい住環境を作っていく (社会不安)

強み:自動車道路の整備が良好
◦車の運転ができない高齢者などの増大にあわせ、既存道路ストックを公共交通路として積極的に活用する。沿線の空き店舗も停留所周辺の整備と絡めて、パークアンドライドの可能性も検討。

弱み×機会

弱み:公共交通ネットワークが弱い
◦既存の道路ストックを生かす (ストック増大)
◦これから増大する高齢者が内に引きこもらず地域の社会資源として広く活躍できるような交通ネットワークを作る。(高齢者の貢献)
◦中心市街地で高齢者が車を使わなくても暮らしやすいような公共交通整備 (高齢者の貢献)
◦便利さだけではなく車を使わないライフスタイル、「スローライフ」「エコな暮らし」を選択できるような街にする

弱み:景観意識が低い
◦(景観文化意識が高まっている)この期をのがさず小さなアクションを起こしていく。景観意識を持った人々を集約するような受け皿をつくる
◦中心市街地に次々と立つマンション。市場原理だけにまかせず、中心市街地ならではの魅力的なライフスタイルを提案できるようなイメージづくりとそれを推進していく上でのアクションルールづくり。宇都宮の地産文化を生み出せるようなネットワークづくり

<まちづくりを統括する機関>

弱み:市街地の公共スペース、魅力的な住環境が少ない
◦(景観文化意識が高まっている)この期をのがさず小さなアクションを起こしていく。景観意識を持った人々を集約するような受け皿をつくる
◦中心市街地に次々と立つマンション。市場原理だけにまかせず、中心市街地ならではの魅力的なライフスタイルを提案できるようなイメージづくりとそれを推進していく上でのアクションルールづくり。宇都宮の地産文化を生み出せるようなネットワークづくり

弱み:廃棄物量が減らない
◦政策はあるが、個人レベルへの浸透
◦担当者が変わってしまう。腰を据えてやらなければならない。

まとめ

- ・公共交通ネットワークの充実
- ・住環境(都心も郊外も)の整備とコミュニティづくり 大谷石の活用も
- ・廃棄物・個人レベルへの浸透
- ・まちづくり統括機関をつくる

テーマ	重点課題
•	重点課題をテーマ別に、3～4つに絞って整理してみましょう。